

式辞 本日は、公私ともに御多用の中、多くの保護者等の皆さまに御臨席いただき、令和四年度第三十三回卒業証書授与式が、かくも盛大に挙行できますことに、高段からではございますが、お礼並びに感謝申し上げます。

ここで、新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けられた（又受けられている）方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、日頃から感染拡大対策に御理解並びに御協力をいただき感謝申し上げます。

あわせて、卒業式でのマスクの扱いを含め、新型コロナの対応について緩和する方向での検討が進められておりますが、本校には、生徒・保護者等の皆様含め広範囲から御参集いただく特殊性があることを踏まえ、やむなく、御家族から式場には一名のみの入場とし、別会場での御出席に御協力いただいておりますことにお礼申し上げます。また、御来賓の出席も控えていただいておりますことを申し添えさせていただきます。

さて、十年に一度と言われるほど厳しい寒さや積雪に見舞われ、臨時休業までも余儀なくされた、厳しい試練を私たちに与えた冬も鳴りを潜め、天然ワカメの漁が最盛期を迎えた栗田湾に、温かみのある風と柔らかな日差しが光り、春の訪れを実感できるようになりました。

まずは、先ほど卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

卒業生の皆さんが入学した令和二年は、新型コロナの影響とともに始まり、入学直後に臨時休業となったり、部活動の大会を含め多くの行事、実習などが中止や、縮小となりました。皆さんの多くが、不安な気持ちや残念な気持ちにさえなったことでしょう。

しかし、皆さん一人一人が困難や試練を一つ一つ乗り越え、努力、精進してきたお陰で、この三年間、近畿地方唯一の水産・海洋系単独高校である京都海洋高校で、皆さんは、普通科にはない、本校ならではの充実した設備や環境の中で、授業・実習、地域とつながる研究活動、資格取得、部活動、生徒会等の委員会活動、ボランティア活動、コンテストへの応募・挑戦・入賞などを通じて実践を深めてきました。そしてそれぞれが大変質の高い進路を実現するなど、目覚ましい実績を積み上げました。

例えば、資格取得に顕著な成績を収めた、京都府教育委員会による「教育長表彰」では、卒業生の七割以上の生徒が受賞、これは、京都府内府立高校で他校の追隨を許さない、トップの受賞率。また、全国の水産・海洋系学科に在籍する生徒の学習成果や職業資格の取得、技術・技能検定等の合格・コンテストを含む大会入賞等を通じた評価がなされるマリナーマイスターには、卒業生の八十六％が受賞、中でも得点が高い上位十名に、全国に三千人を超える生徒の中から本校生徒が六名含まれる快挙もありました。

これらのことは、全国の水産・海洋系高等学校の中でも冠たるポジションを確立している証であり、今、皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

海洋高校での生活は本日で終了しますが、皆さんのすべての経験は、貴重な糧として金字塔に刻まれ、心の中で生き、そして支え続けてくれることを確信します。

本日、私から、三つのメッセージを贈ります。

一つ目は、予測不可能な時代に非認知能力が貢献することです。

本日発行のPTAだよりに、「VUCA（ブーカ）の時代」といって、予測不可能な時代が続くと言われていることを書きました。例えば新型コロナウイルスの世界的大流行や、ロシア軍によるウクライナ侵攻の影響で世界経済にまで影響が及んでいることなど、だれも予測できなかったことでもあります。近い将来、私たちは、このようなこと以外の、さらに困難な場面に直面するかもしれません。

しかし、自信を持ってください。海洋高校で皆さんは、普通科では学ぶことのできない、「非認知能力」を身に付けてきました。非認知能力とは、学力で計れず、数値化できない

能力のことで、自己肯定感、自制心、物事を最後までやり抜く力や意欲、好奇心、柔軟性、コミュニケーション能力、創造性など幅広い要素で説明されます。例えば、英語の単語や文法のテストで試される力は認知能力で、話そうとする意欲が非認知能力です。認知能力として単語や文法のテストで高得点が得られても、英語を使って話そうとする意欲やコミュニケーション能力、いわゆる非認知能力がなければ生かされません。ということになります。

二つ目は、「瞬間」の大切さです。

これは、文筆家・エッセイストで、多くの書籍を執筆され、六十年以上のロングセラーである「暮しの手帖」という雑誌の編集長も務められている松浦弥太郎さんの言葉であります。

「瞬間」という言葉は、「タイミング」とも言い換えられます。物事を始めようとするタイミング、資格を取得しようとするタイミング、何かを決断するタイミングなど、長い人生には自分が意思決定をすべき大切な瞬間、いわゆるチャンスが必ず訪れます。また、決断が遅れた場合に後悔しても、間に合わなくなってしまう場合も多いものです。是非、皆さんも、受け身ではなく前向きな考え方、何事にもプラス思考でチャンスを捉え、挑戦する姿勢を持ち続けてください。

三つ目は、幸せについてです。

世界を見渡すと、戦争の最中にあつたり、地震災害で日常の学習さえままならない国もあつたりする中で、今、こうして皆さんとともに、卒業式でお祝いすることができていることに、私も感謝しています。この感謝ができる人が、幸せな人であります。同じ境遇にあつても、不平や不満ばかりを訴えている人は、幸福感は得られないということです。例えば、千円のお小遣いをもらったとしましょう。感謝できる人は幸せですが、不足に思う人は幸せとは言えません。皆さんも、本日この後、支えていただいた保護者等の皆さんに感謝して、より幸せな気持ちに浸ってもらえればと思います。

また、幸せな人は、感謝の気持ちの他、他人への尊敬と思いやりの気持ちを持っている人だと言われています。是非、感謝、尊敬、思いやりの気持ちを持ち、みんなで幸せになりましょう。

後になりましたが、保護者等の皆さま、三年間、海洋高校の教育活動への御理解、さまざまな御支援、誠にありがとうございました。成年年齢が十八歳に引き下げられ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動が求められているところですが、本日巣立つ卒業生たちにも未完成的な部分も残しています。引き続き、温かく応援していただきますよう、よろしくお願いたします。

結びに、本日の卒業式をもって本校から旅立つ皆さんは、成年（成人）として、本校で培った力を、自信を持って大いに発揮する人生のステージに向かいます。

高校を卒業しますと、さまざまな面で保護者等の方や先生たちなどの、他の人に支えてもらうことが減り、各自の判断に従って、行動や言動に、責任を持たなければならないことが増えてきます。

常に感謝の気持ちを忘れず、そして主体的に行動する自己実現を通して、人生百年時代を、より幸せに歩んでもらうことをお願いしておきます。以上、式辞とします。

令和五年三月一日

京都府立海洋高等学校

校長 上林 秋男